



No.19 (通No.98) 2019年6月22日

# てつがく なかにわ リーズレター 哲樂の中庭 2019年夏至

日常に〈てつがく〉…みてきいて、感じ考えて、まとめて、伝えてみる試み

## 「見える化」を超える境地

「見える化」という言葉が出てきたのはいつ頃でしょう。個人的には14年ほど前に初めて聞いたように記憶しています。

「見える化」の意義はよく理解しているつもりです。人間は見えるもの、動くものに反応し、見えないもの、動かないものには反応が鈍くなるから、『**日常業務は戦略的業務を駆逐する**』事態にもなると、よく話しています。

セミナーなどでは、人間の頭の中を見ることができないので、必ず何らかの記号化が必要だと、コミュニケーションの概念図を示しながら、けっこう熱く語っています。

ビジネスに限らず自分の想いを伝える努力は社会生活する限りずっと続くといえますが、その努力がある時点で大きな賜物を生む、だから努力する意味もあるというもの。

その賜物とはいうと、「見える化」を超える、「見える化」に左右されない関係性。

何かしらの関係性を築こうと「見える化」の努力し、その甲斐あって〈縁〉ができて、交流が続く。それだけでも十分、「良好な関係」ですが、そこからさらに高みへいく。もう互いの存在そのものが掛け替えないものとして感じられる、そういう境地を得たいものです。

仕事を通してでも、その域に達する人と出会えたとしたら、それは本当に合わせること。もちろんその後も伝える努力は続けて。

「見える化」の基本は〈言葉にする〉。3年前に出た『**言葉にできる**』は**武器になる**』が今もよく売っていますが、言葉にして書いて、文書にして伝える。簡単そうで、そう簡単ではないアプローチ。

いい関係でいて、先方を十分よく知っているつもりでも、あらためて、こちらの姿勢や本意、本心を、**短文ではなく長文で**、書いて相手に伝えてみる。関係性の新しい境地がみえてくるかもしれません。試してみるのも一考です。

### 起業で『晩年のスタイル』

6月から7月にかけてニヶ所で創業塾、起業塾の講師を担当、どちらも熟年層の参加が増加。

以前のような会社員時代の延長戦の業ではなく、新しく出会ったテーマで起業しようとする人たち、晩年期の男女。

特に男性たちに注目。他の参加者たちとよくコミュニケーションがとれて、共感性が高く、ありがちな「上から目線」無し。長い晩年期を晴々と、潔く、闊歩されていく様子。

### ふたたび「哲樂の中庭」

1995年から続けるリーズレター、「令和」最初の今回からふたたび初期のレター名に。今あらためて、これが合っている、しっくりくる感覚です。

当時「哲」を大辞書で調べたら、〈考える〉を〈たのしむ〉という意味もあった。そこで学ではなく〈樂〉にして、そういう空間、パークレット(?)の意味をこめた「哲樂の中庭」です。

LEE'S (リーズ)

〒530-0012

大阪市北区芝田2丁目8-15

北梅田ビル35号

リー・ヤマネ・清実

Lee Yamane Kiyomi

### 見聞感考 | 『ロボットと未来社会』から22年

1997年の8月、日本機械学会の創立100周年記念国際シンポジウムが東京フォーラムでありました。新聞でこの案内を見たとき、後さき考えず、すぐに参加希望の申し込み。とにかく登壇者の顔ぶれがスゴイ。理系から文系まで、二日間にわたり25名の知の巨人たちが、越境する知の豊潤な語り合いを繰り広げる。こんな機会はそうそうありません。

脳科学、認知科学の本を当時よく読んでいたので、この場に居合わせ、「ミンスキー」と少し言葉を交わせたのは幸運でした、拙い英語でしたが。

あれから22年。2014年に日本でAIが商用に使われるという記事を見た時から、今の状況はある程度想像していました。超便利になる一方で、超監視されるというのは、ここ最近のトピック。なにごとにも功罪あり、です。

4年前、「ブロックチェーン」を教えてくださいました研究者の知人の一言が印象的でした。『もう誰にもとめられない』。

